

2016年5月12日

2009年からの常設展示のリニューアルが一巡!

## 国立民族学博物館 中央・北アジア及びアイヌの文化展示

### 2016年6月16日(木) 新しくなってオープン

国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園 10-1）では、中央・北アジア及びアイヌの文化展示を2016年6月16日（木）に刷新してオープンする運びとなりました。2009年から始まった常設展示のリニューアルは、今回で一巡します。



揺りかごに赤ん坊を寝かしつけるカザフ女性たち 2001年



阿寒アイヌ協会によるサロルンリムセ（鶴の舞）2015年

#### ◆中央・北アジア展示 33年ぶりのリニューアル!

中央アジアからモンゴル、シベリア・極北にいたる広大な地域では、厳しい自然環境に適応しながら多様性に富んだ暮らしが営まれてきました。自然と共にある生活、社会主義時代における変容、現代に息づく信仰、人の一生を彩る儀礼、職人の技など知られざる魅力を紹介します。

特に、社会主義体制から移行後の変化を反映して、現地での最新のフィールドワークに基づき収集した資料を展示します。シベリアの樹皮製カヌーやトナカイそり、モンゴルの現代シャマンの衣装、カザフの住居復元、ウズベクの陶器など、中央・北アジアの人々を等身大で感じられる展示が見どころです。



弦楽器（ドンブラ）カザフスタン 2014年収集

#### ◆アイヌの文化展示 37年ぶりのリニューアル!

日本の先住民族であるアイヌは、北海道を中心に本州北部、千島列島、サハリン南部に住み、隣接する民族との交流のなかで文化を形成してきました。伝統を継承しつつ、新たな文化を創造する人びとの姿を紹介します。

以前から展示していた復元家屋の中と祭壇の前にマネキンを置いて儀式の様子を再現します。また、伝統の文様や技法を生かしつつ今の暮らしになじむようにつくられた工芸品、民族のアイデンティティを表現した作品、音楽、写真などをおとして、現代の文化を感じていただけるのが今回の見どころです。



藤戸康平「iPhone ケース」2015年制作

## 【展示概要】

中央・北アジア展示場 資料点数 約 1,200 点

中央・北アジアは、ユーラシア大陸の北東部を占める広大な地域です。古くから東西南北をむすぶ交渉路としての役割を担い、多様な民族が行き交ってきました。20 世紀に社会主義を経験した後、市場経済に移行し、グローバル化の波にさらされながら伝統を再評価する動きがみられます。「自然との共生」「社会主義の時代」というふたつの共通テーマをふまえて、「中央アジア」「モンゴル」「シベリア・極北」の3つの地域に生きる人びとの今を紹介します。

### [自然との共生]

中央・北アジアの人びとは、乾燥した環境や寒冷な環境に適応し、狩猟、漁撈、牧畜などを行って自然と共生してきました。現地の映像、等身大の動物模型、身近な材料に工夫を凝らして作られた美しい帽子や靴などを展示します。



トゥヴァの騎乗用トナカイ

### [社会主義の時代]

ソ連の影響を強く受けた中央・北アジアでは、社会主義の理想を実現しようと生活の改良がすすめられました。旗やバッジ、生活用品など「もうひとつの近代化」の実像をお伝えします。



ソフホーズの旗 ウズベキスタン 2013 年収集



飾り皿 ウズベキスタン 2014 年収集

### 〈中央アジア〉

カザフ草原の暮らし、オアシス都市の暮らし、職人の世界、イスラームと人生儀礼について、新規収集した資料を数多く紹介します。家族の暮らしぶりを伝える室内復元、ゆりかごや花嫁衣裳、陶器や木工芸などが見どころです。

### 〈モンゴル〉

遊牧の暮らしについて詳しく展示するだけでなく、遊牧によって培われてきた行動力と競争精神、遊牧民にとっての富の象徴、そして現代の都市に息づくシャマニズムと仏教についても紹介します。



馬乳酒用壺 モンゴル 1970 年代製作



白樺樹皮製のカヌーを操るナーナイの男性

### 〈シベリア・極北〉

寒冷な地域に暮らし先住民族について、極北のツンドラと海の文化、アムール川流域の漁撈と狩猟の文化、精霊とシャマニズムの世界、そして民族学の先駆者・鳥居龍蔵の調査を紹介します。

## アイヌの文化展示場 資料点数 約 430 点

アイヌは、日本列島北部の寒冷な自然環境のもとで、独自の文化を育んできた先住民族です。江戸時代に幕府と藩による支配が始まり、明治時代に同化がすすめられると、アイヌは差別を受け生活に困るようになりました。しかし近年、日本政府はその歴史的事実を認め、アイヌ民族を尊重した政策に取り組みはじめました。新展示では、伝統を継承しつつ、あらたな文化を創造する人びとの姿を紹介します。

### 〈アイヌとは〉

アイヌとは、アイヌ語で「人間」を意味することばです。アイヌは北海道をはじめ、本州北部や千島列島、樺太(サハリン)南部に住み、となりあう民族と交わりながら、文化を築いてきました。その歴史と特徴を、当館のコレクションの成り立ちとともに見てゆきます。



貝澤徹「アイデンティティ 3」2015年制作



煙草入れと煙管差し 樺太 1907年収集

### 〈カムイと自然〉

人びとは、あらゆるものに靈魂が存在すると考え、なかでも生活とかわりが深く、人間を超える強い力をもつものをカムイ(神)と意識してきました。カムイに敬意を払いつつ、自然のなかから必要なものを得てきた知恵と技を知ることができます。



貝澤珠美「SIROSI・印」2013年制作

### 〈現代そして未来〉

先住民族に関する国際的な動きと同調しながら、社会的な地位の向上や文化復興に力を注いだ先人の歩みを振り返ります。そして、新しい文化の創造や次世代への文化の継承、多民族が共生する社会にむけたさまざまな取り組みに目を向けます。

## 国立民族学博物館本館展示(常設展示)について

本館における展示は、地域展示と通文化展示からなっています。地域展示では、オセアニアを出発して東回りに世界を一周し、最後に日本にたどり着く構成をとっています。

一方、通文化展示では、特定の地域でなく、音楽と言語を取り上げて広く世界の民族文化を通覧する形で展示しています。



開館時間	10:00～17:00 (入場は 16:30 まで)
休館日	毎週水曜日 (ただし、水曜日が祝日の場合は翌日が休館日)、年末年始 (12 月 28 日～1 月 4 日)
観覧料	一般 420 円 / 高校・大学生 250 円 / 小・中学生 110 円

**【関連イベント】****中央・北アジアを駆けめぐる一夏のみんぱくフォーラム 2016**

中央アジアからモンゴルを経てシベリアまで、広い大地を駆けめぐるように、現地の多様な文化と社会をイベントをとおして紹介します。

**●みんぱくゼミナール**

6月18日(土)「ポスト移行期モンゴルの文化変容」(講師:小長谷有紀(国立民族学博物館 併任教授))

7月16日(土)「カザフ女性たちの結婚と子育て」(講師:藤本透子(国立民族学博物館 助教))

**●みんぱくウィークエンド・サロン—研究者と話そう**

7月10日(日)、7月24日(日)、7月31日(日)

**●みんぱく映画会「映画で知る中央・北アジア」**

6月12日(日)「ゲルス・ウザーラ」

6月25日(土)「モンゴル」

7月9日(土)「山嶺(さんれい)の女王 クルマンジャン」

7月18日(月・祝)「くるみの木」(日本初公開)

**●コンサート**

7月17日(日)「サハの口琴」

7月31日(日)「カザフ草原の調べ」

**●夏休みこどもワークショップ**

7月23日(土)「カザフのひつじ ウズベクのひつじ—フィールドワークに挑戦！」

**●展示場クイズ「みんぱQ」中央・北アジア編**

7月21日(木)～8月23日(火)

詳細はホームページをご参照ください。また、アイヌの文化展示リニューアル関連イベントにつきましても、12月頃から実施予定です(決まり次第順次ホームページにてご案内いたします。)

中央・北アジア及びアイヌの文化展示 広報用画像リスト

 <p>【1】揺りかごに赤ん坊を寝かしつける女性たち（カザフスタン）</p>	 <p>【2】阿寒アイヌ協会によるサロルンリムセ（鶴の舞）2015年</p>	 <p>【3】弦楽器（ドムブラ） カザフスタン 2014年収集</p>
 <p>【4】藤戸康平「iPhone ケース」 2015年</p>	 <p>【5】トゥヴァの騎乗用トナカイ</p>	 <p>【6】ソフホーズの旗 ウズベキスタン 2013年収集</p>
 <p>【7】飾り皿 ウズベキスタン 2014年収集</p>	 <p>【8】白樺樹皮製のカヌーを操るナーナイの男性（ロシア連邦ハバロフスク地方）</p>	 <p>【9】貝澤徹「アイデンティティ 3」 2015年制作</p>
 <p>【10】煙草入れと煙管差し 樺太 1907年収集</p>	 <p>【11】貝澤珠美「SIROSI・印」 2013年制作</p>	

中央・北アジア及びアイヌの文化展示  
広報用画像利用申込用紙

## 【ご希望の画像番号】

--

## 【貴社・貴機関について】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
所在地 〒	
電話番号	E-mail
ご掲載・放映の予定日	年 月 日

## 【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

- 3組6枚      5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒
-------

## 【申込先】

- メール koho@idc.minpaku.ac.jp    または    ■ FAX 06-6875-0401

## 【広報に関するお願い】

- 写真使用に関するお願い、注意事項
  - ・【3】【4】【6】【7】【9】【10】【11】のクレジットには国立民族学博物館蔵と記載してください。
  - ・写真（画像）のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。
  - ・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。本展の紹介以外での使用はできませんのでご了承ください。
- 本館の基本情報等の確認のため、メールまたはFAXにて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。
- お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。

## 【お問い合わせ・送付先】

国立民族学博物館 総務課広報係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
TEL : 06-6878-8560（直通） FAX : 06-6875-0401 メール : koho@idc.minpaku.ac.jp